

3月定例会概要

平成22年3月定例会は、3月1日から3月19日までの19日間の会期で行われました。

今定例会では、平成22年度一般会計予算(総額130億円)、特別会計・事業会計予算(総額80億7859万円)、平成21年度一般会計補正予算(総額4984万円の増額)、特別会計・事業会計補正予算(390万円の減額)の各予算案24件、条例改正案など21件の計45議案が市長から提出されました。

9日から11日にかけては一般質問に14名の議員が登壇し、12日から16日には総務・産業建設・社会文教委員会へ、付託された議案について審議しました。

最終日19日には、提出された議案についてすべて原案のとおり可決されました。

決されました。
陳情6件の審査の結果については、1件を趣旨採択、5件を不採択としました。

委員会審査

3月12日、15日、16日に、各委員会において審査が行われました。

総務委員会

当委員会に付託されました議案は、平成22年度一般会計予算案の関係部分及び、特別会計予算案2件、平成21年度一般会計補正予算案の関係部分及び、特別会計補正予算案2件、条例案4件、事件案3件の計11議案でした。

審査結果は、全議案すべて全員一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

陳情4号「所得税法第56条の廃止を求める陳情」は、慎重審査のうえ採決の結果、全員一致で趣旨採択とすべきものと決しました。

産業建設委員会

当委員会に付託されました議案は、平成22年度一般会計予算案の関係部分及び、特別会計予算案4件、水道事業会計予算案、平成21年度一般会計補正予算案の関係部分及び、特別会計補正予算案4件、水道事業会計補正予算案、条例案2件、事件案4件の計18件でした。

審査結果は全議案すべて全員一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

陳情5号「米価の下落に歯止めをかけ、再生産できる米価の実現を求める陳情」につきましては、

農家の所得補償をする観点から採択すべきとする意見がありました。が、「米戸別所得補償モデル事業」は、新政権が米価下落の歯止めと価格と需給を安定させるために行う施策であり、飯山市でも新年度から「米戸別所得補償モデル事業」に取り組んで行くので、今年度の様子を見る必要があるのではないかと等の意見があり、採決の結果、賛成少数で不採択すべきものと決しました。

陳情第6号「西大滝ダム水利権更新に反対し治水対策を求める陳情」につきましては、陳情項目2、3、4は直接ダムとは関係ないと思われるが、堤防補強を含めての河川改良の要望で、市としても国・県へ強く要望している事項であり、添付された署名2802名分の願意は理解できる。しかし、陳情項目1の西大滝ダムの件は、上流の水害にどのように影響を与えているかについては、科学的な根拠が明らかとなっておらず、学者や研究者のなかでもいろいろな見解があるとの

意見や、ダムがあるから飯山盆地が水害になったとの因果関係ははっきりしていないとの意見や、昨年9月に西大滝ダムのゲート開放時の千曲川水位の状況を見たが、上流へのダムの影響は考えにくいとの意見があり、採決の結果、不採択とすべきものと決しました。

社会文教委員会

当委員会に付託されました議案は、平成22年度一般会計予算案の関係部分及び特別会計予算案6件、平成21年度一般会計補正予算案の関係部分及び特別会計補正予算案4件、条例案5件、事件案3件の合計20件でした。

全議案すべて全員一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

仁王像修復事業について、明治45年の善光寺のご開帳にあわせ、飯山の仏師たちが制作した仁王像を飯山市へ移設するという事であるが、どういった位置づけで行う事業なのかをあらかじめ示すべきではないかとの意見が出されました。また、他の事業についても最初にしっかりとした事業の目的を示し、計画を立てるべきではないかとの意見がある

りました。

陳情第1号「後期高齢者医療制度の廃止を求める陳情」、陳情第2号「市町村国保の改善を求める陳情」については、現在国において検討し制度の見直し作業が行われていることもあるため、その動向を見守るべきとの意見があり、賛成少数で不採択と決しました。

陳情第3号「『無年金・低年金者の救済を緊急に講じる』意見書の採択を求める陳情」については、公平性を考えると、年金を納めていない人に対しても年金を給付することになれば、今後の納付に影響が出てくるのではないかとこの意見があり、賛成少数で不採択と決しました。

一般質問

3月9日、10日、11日の3日間、14名の議員から市政に対する一般質問が行われました。以下、内容は要約して掲載します。

新年度予算について

◇雪対策について

【質問】人口流失の要因の一つとして冬期間の生活の大変さがあるが、今住んでいる人の安心安全な暮らしの確保をしていくためにも道路の除排雪のみならず市民生活全般に関連した総合的な雪害地域づくりをもう一度作り直す必要があると思うが。

【建設水道部長】道路除排雪については前年の反省を生かしながら計画を策定し除雪事業を行っている



沼田喜一議員

る。市街地の除雪については、道路が狭いなど機械除雪ができない場所が多く、消雪パイプ用の水源の確保ができない状況もあるが、消雪パイプや融雪・無散水施設を整備するとともに、道路側溝を改良したり、流雪溝整備も計画的に進めながら雪につよいまちづくりに取り組んでいきたい。

【質問】企業誘致対策事業を予算化して積極的に取り組んでいるが、企業訪問する中で、各企業の感觸や状況はどうか。また、戸狩工業団地へ進出を希望しているという企業の動向・進捗状況は。

【市長】県の協力も頂きながら2年間東京に市職員を派遣し、企業誘致に努めてきた。新しい企業誘致というものは、今の経済状況下においては、大変厳しいと感じている。戸狩工業団地へ来ていただく予定の企業とは、しっかりと話を詰めている。「進出するなら飯山」と言っている経過があるので、今後の経済状況を見ながら、しっかりと対処していく。



除雪作業の様子